

I 実践

1 研究主題

誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合い、粘り強くやり遂げる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び 心豊かに たくましく生きるーかしこく やさしく たくましくー」を教育目標としている。これを受け、人権教育部として、「誰に対しても思いやりの心を持ち、皆と仲良くできる子を育てる」「仲良く助け合い、粘り強くやり遂げる子を育てる」の2点を目標に掲げて取り組んできた。

本校の児童の多くは、活発で素直であり、友達と協力して学校生活を送ることができる。しかし、中には友達のことを傷つけるような言動が見られる。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さをお互いに認めること』ができる児童を育成したいと考える。

(2) 研究内容

ア 人権意識を高めることのできる環境づくり

イ 豊かな心を育む体験活動の充実

2 実践内容

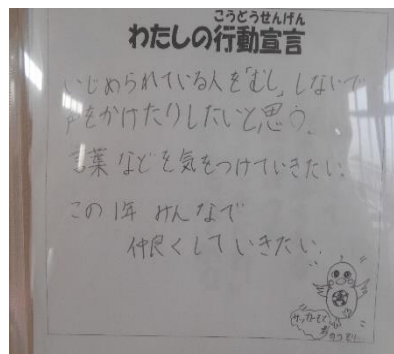
(1) 人権意識を高めることのできる環境づくり

ア いじめZERO集会

6月21日（金）に、坂本委員会の児童が中心となり、全校児童でいじめについて考える集会を開いた。まず、楽しい学校生活のために毎月行っているアンケートの結果を全児童で確認し、いじめZEROを目指す意欲を高めた。その後、「幸せなら手を叩こう」の替え歌に合わせて、簡単な振り付けをして踊ったり、いじめを撲滅するためのゆるキャラである「サッカーもとくん」を紹介したりした。集会後は「わたしの行動宣言」を書き、各教室に掲した。



替え歌を紹介している様子



わたしの行動宣言



サッカーもとくん

イ 人権週間の設定

9月2日（月）～9月6日（金）までを人権週間とし、人権啓発活動の一環として、人権教育に関するDVDを視聴し、人権メッセージを作成した。作成した人権メッセージは人権啓発推進センター主催の「人権について考えてみませんかーあなたの思い・わたしの思いー」に代表作品を応募した。

ウ 人権書道コンクールへの応募

「人権尊重」「思いやり」等、人権をテーマとした書道作品を書くことを通じて、人権尊重の重要性、必要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けさせることを目的として、夏休みに5、6年生を対象に人権書道を募集し、コンテストに応募した。

(2) 豊かな心を育む体験活動の充実

ア 福祉体験

4年生は総合的な学習の時間に福祉をテーマにした学習を実施している。

今年度も9月25日(水)は日立市社会福祉協議会の協力を得て、福祉体験を実施した。車いす体験、高齢者疑似体験、盲人体験を通して、からだの不自由な人の生活の様子を学び、理解を深めることで、思いやりの心の育成を図った。また、誰もが住みやすいまちづくりにするにはどうすればよいかについて考えることができた。



高齢者体験

イ 地域高齢者との交流

11月21日(木)に4年生が、地域の高齢者とふれあい、会食を共にする「ふれあいサロン」(坂下地区地域福祉局との共催)を実施した。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、ダンスや歌を披露し、じゃんけんゲーム、似顔絵リレーなどで遊び、会食を楽しんだ。高齢者の方々に真心をもって接したり、手を差し伸べたりすることの大切さを身をもって体験することができた。

3 成果

- ・ 「いじめZERO集会」や「人権メッセージの作成」の取組等を通して、友達と仲良く過ごすためには、相手の立場に立って考えることや思いやりの心をもって接することが大切であることに気付くことができた。児童一人一人が真剣に考えたことで、人権問題に対する意識の高まりにつながった。
- ・ 様々な行事に参加し、地域の方々とふれあう機会を多くもつことで相手を思いやる気持ちが育ってきている。また、友達との関わりの中で、友達を思う行動や、友達からの気遣いを受けることによって、これまでは気付かなかった友達のよさの発見や自己肯定感の高まりなど、豊かな心が育ってきた。

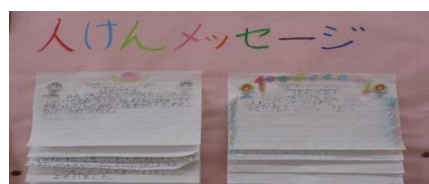
II 今後の課題

人権教育を行うにあたって、教員自身も人権感覚を磨いていくことが重要である。そのためにも校内研修の充実を図る必要がある。また、保護者への啓発も図り、学校と家庭が連携、協力しながら人権教育活動の幅を広げていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



人権コーナー



人権メッセージ